日本語とモンゴル語の主題マーカーの条件用法

賽希雅拉図

本研究は、日本語の「は」とモンゴル語の bol の条件用法について考察するものである。日本語の条件を表す「ば」が「は」から発展変化したものであることについて、阪倉（1993）は次のように述べている。

1）動詞の第一活用形に助詞の「は」を添えた「～未然形＋は」は仮定条件の前件を表していた。それが形式として固定して慣用化した結果、「は」が連濁を起こし、「ば」になった。たとえば、「行か＋は」→「行かば」
2）動詞の第五活用形に助詞の「は」を添えた「～已然形＋は」は確定条件の前件を表していた。それが形式として固定して慣用化した結果、「は」が連濁を起こし、「ば」になった。たとえば、「読め＋は」→「読めば」
3）形容詞の連用形に助詞の「は」を添えた「～くは」は仮定条件の前件を表していた。この「は」が「ば」と連濁しなかったのは、連用形はある程度独立性をもった自由形式であったためである。たとえば、「よい＋は」→「よくは」
4）否定の助動詞「ず」に助詞の「は」を添えた「～ずは」は仮定条件の前件を表していた。この「は」が「ば」と連濁しなかったのは、否定の助動詞「ず」が形容詞性をもっていたからである。たとえば、「ふる＋ず＋は」→「ふらずは」

以下、本研究では日本語の条件を表す「～ば」とモンゴル語の bol を中心に、その類似点と相違点について考察を行いたい。具体的には、恒常条件を表す用法、仮定条件を表す用法、確定条件を表す用法の 3 つに分けて考察する。

1　恒常条件を表す用法

この節では、日本語の「ば」とモンゴル語の bol について、「恒常条件を表す用法」と「反復・習慣を表す用法」の 2 つに分けて考察する。以下、恒常条件を表す用法、反復・習慣を表す用法の順に見ていく。

１）恒常条件を表す用法

恒常条件の用法は、物事の道理を表し、現実に生起・存続する個別的事態を問題にしないものである。

（ア）「ば」にも bol にも恒常条件を表す用法がある。

日本語の「ば」にもモンゴル語の bol にも恒常条件を表す用法がある。たとえば次の (1) は、「多い」という形容詞に「ば」と bol が接続して、恒常条件を表している例である。

(1) a. 〈日〉人が多ければ力が大きいよ。

b. 〈モ〉ᠬᠥᠮᠦᠨ᠂ᠣᠯᠠᠨ᠂ᠪᠣᠯ᠂ᠬᠦᠴᠦ᠂ᠶᠡᠬᠡ᠂ᠰᠢᠦ᠃᠂᠂ （NMGDX コーパス）

kömün olan bol küčü yeke siü.

人 多けれ ば 力 大きい MP

（人が多ければ力が大きいよ。）

次の (2) は、「いる」動詞の否定形に「ば」と bol が接続した例である。この文も恒常条件を表しているものである。このほかに、モンゴル語の bol には、形動詞に下接して恒常条件を表す用法もある。

(2) a. 〈日〉他人がいなければ、恥というものは生まれてこない。 （益岡 2000: 154）

b. 〈モ〉ᠪᠤᠰᠤᠳ᠂ᠬᠥᠮᠦᠨ᠂ᠪᠠᠶᠢᠬᠤ᠂ᠦᠭᠡᠢ᠂᠂ᠵᠢᠴᠢᠭᠦᠷᠢ᠂ᠭᠡᠰᠡᠨ᠂ᠶᠠᠭᠤᠮ᠂ᠠ᠂ᠪᠣᠯ᠂ᠪᠤᠢ᠂ᠪᠣᠯᠬᠤ᠂ᠦᠭᠡᠢ᠃᠂᠂

busud kömün bayiqu ügei bol, ičigüri gesen yaγum_a bol bui bolqu ügei.

他 人 いる ない ば 恥 という もの は 生まれるない

（他人がいなければ、恥というものは生まれてこない。）

２）反復・習慣を表す用法

恒常条件の用法に隣接するものとして、反復・習慣を表す用法がある（益岡 2000: 155）。

（イ）「ば」にも bol にも反復・習慣を表す用法がある。

日本語の「ば」にもモンゴル語の bol にも反復・習慣的動作を表す用法がある。たとえば次の (3) では、「折さえあれば本を読んでいる」という反復・習慣的動作を表している。

(3) a. 〈日〉二人とも折さえあれば本を読んでいる。 （益岡 2000: 155）

b. 〈モ〉ᠬᠣᠶᠠᠭᠤᠯᠠ᠂ᠴᠥᠮ᠂ᠴᠠᠭ᠂ᠯᠡ᠂ᠪᠠᠶᠢ᠂ᠳᠠᠭ᠂ᠪᠣᠯ᠂ᠨᠣᠮ᠂ᠤᠩᠭᠰᠢ᠂ᠵᠦ᠂ᠪᠠᠶᠢᠨ᠂ᠠ᠃᠂᠂

qoyaγula čöm čaγ le bayi-daγ bol nom ungsi-ǰu bayin_a.

二人　　とも 折　さえ ある-VN ば　本　　読む-CV いる
（二人とも折さえあれば本を読んでいる。）

反復・習慣を表す「ば」と bol は、次の (4) の「没頭していた」のように、過去のテンスを取ることが可能である。

(4) a. 〈日〉僕は暇さえあれば読書に没頭していた。（益岡 2000: 155）
b. 〈モ〉
bi čilüge le　　bayi-daγ　　bol　nom　ungsi-ǰu　bayi-ba.
僕 暇　　さえ ある-VN　ば　本　　読む-CV　いる-PAST
（僕は暇さえあれば読書に没頭していた。）

2　仮定条件

この節では仮定条件を表す用法を、現実化以前の事態を表す用法、成立するかどうか分からない事態を仮定する用法、事実に反する事態を仮定する用法の 3 つに分けて述べる（この 3 つの用語は益岡2000の用語である）。

1）現実化以前の事態を表す用法

現実化以前の事態というのは、前件の事態が起こることは確実であるが、まだ起こっていないことを表すものである。

（ウ）「ば」にも bol にも、現実化以前の事態を表す用法がある。

日本語の「ば」にもモンゴル語の bol にも現実化以前の事態を表す用法がある。bol で現実化以前の事態を表す時は、基本的に bol の前に真偽判断のモダリティ yum を入れる。たとえば次の (5) は、「ば」と bol によって現実化以前の事態を仮定している例である。モンゴル語の例 (5b) は、仮定形 bol の前に真偽判断のモダリティ yum が用いられている。

(5) a. 〈日〉どんなに愛し合っても、時間がくれば別々の場所へ帰らなければならない……。（益岡 2000: 156）
b. 〈モ〉
yaγakiǰu　qarilčan qayirala-ǰu bayiγsan　ču, čaγ ni　bol-daγ yum bol　　ondoo ondoo
どんなに 互い　愛する-CV　　いても　　時間 来る-VN は　別々
γaǰar　ǰüg　qari-qu　　ügei　bol bolqu　ügei.

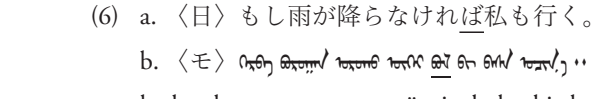
場所 へ　帰る-VN なければ なる　ない
（どんなに愛し合っても、時間がくれば別々の場所へ帰らなければならない……。）

２）成立するかどうかが分からない事態を仮定する用法

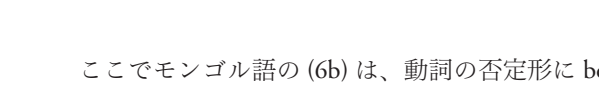
この用法は、事態が起こるかどうかが分からないことを仮定するもので、事態が起こることが不確実であることを表す「もし」や「万一」等を用いることができる。

（エ）「ば」にも bol にも、成立するかどうかが分からない事態を仮定する用法がある。

これは次の (6) のように、前件に成立するかどうかが分からない「もし雨が降らなければ」という事態を仮定し、後件に前件の事態が成立したら後件の事態が成立することを表すものである。

(6)　a. 〈日〉もし雨が降らなければ私も行く。
b. 〈モ〉 
kerbe　boroγan　oro-qu　ügei　bol　bi　basa　oči-n_a.
もし　雨　降る-VN　ない　私　も　行く-NP
（もし雨が降らなければ私も行く。）

ここでモンゴル語の (6b) は、動詞の否定形に bol を付けたものである。この bol は、動詞の肯定形に付くこともある。たとえば次のモンゴル語の (7b) では、形動詞の肯定形 oro-daγ（降る）に bol が付いている。

(7)　a. 〈日〉もし雨が降れば散歩には行けない。　(http://search.yahoo.co.jp)
b. 〈モ〉 
kerbe　boroγan　oro-qu　yum　bol (orobal)selegüce-kü-ber　oči-ǰu　čidaqu ügei.
もし　雨　降る-VN　MP　ば　散歩-VN-INST　行く-CV できない
（もし雨が降れば散歩には行けない。）

３）反事実的条件用法

反事実的条件文というのは、前件に事実に反する事態を想定し、もし前件の事態が起こったら後件のことが起こるだろうという意味を表すものである。

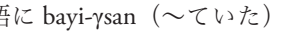
（オ）「ば」にも bol にも、反事実的条件を表す用法がある。

日本語の「ば」にもモンゴル語の bol にも、反事実的条件を表す用法がある。たとえば次の

(8) は、過去の事実に反する仮定条件の用法である。過去の事実に反する場合、日本語では、条件節に「していれば」という形が用いられると、反事実であることが明確になる（日本語記述文法研究会2008: 105）。

(8) a. 〈日〉もっと早く来ていれば、間に合ったのに。（日本語記述文法研究会 2008: 105）
b. 〈モ〉
egün-eče erte ire-gsen bol amǰi-qu bayi-γsan.
これ-ABL 早く来る-VN ば 間に合う-VN いる-VN
（もっと早く来ていれば、間に合ったのに。）

モンゴル語では、過去の反事実を表す場合、bol の前接語が動詞であれば、前の (8b) のように、「形動詞の過去形」の形で用いられる。もし、bol の前接語が名詞や形容詞であれば、前接語に bayi-γsan（〜ていた）を付けると、反事実であることが一層明確になる。たとえば次の (9b) では、sayin（よい）という形容詞と仮定形 bol の間に bayi-γsan（〜ていた）を挿入し、反事実を表す仮定であることを明確にしている。

(9) a. 〈日〉視力がよければ通ってた。　(http://search.yahoo.co.jp/search?)
b. 〈モ〉 
nidün qarača sayin bayi-γsan bol önggerečike-gsen.
視力 よい ある-VN ば 通る-PAST
（視力がよければ通ってた。）

3　確定条件

この節では確定条件の場合について見る。この場合、必然確定条件の用法、偶然確定条件の用法、前件だけが現実の事態を表す条件の用法の 3 つに分けて見ていきたい。

1）必然確定条件の用法

必然確定条件の用法は、前件が後件の原因・理由を表すものである。

（カ）「ば」にも bol にも、必然確定条件を表す用法がある。

日本語の「ば」にもモンゴル語の bol にも、必然確定条件を表す用法がある。モンゴル語は、基本的に過去を表す形動詞に bol を付けて必然確定の意味を表す。

たとえば次の (10) は、十年も外国で暮らしていたので、当然外国の食べ物が好きになるだろ

うということを述べている。

(10) a. 〈日〉十年も外国で暮らしていれば外国の食べ物が好きになったのも無理ないことである。

b. 〈モ〉

arban ǰil γadaγadu-du amidura-γsan bol γadaγadu-yin qoγolan-du duratai

十 年 外国-DAT 暮らす-VN ば 外国-GEN 料理-DAT 好き

bolu-γsan ni basa arγ_a ügei.

なる-VN 3RD も 無理ないこと

(十年も外国で暮らしていれば外国の料理が好きになったのも無理ないことである。)

次に、前件が動的事態を表している例を 1 つあげておく。次の (11) の前件「お母さんが赤ちゃんを放っておいて外に出た」は動的事態を表している。

(11) a. 〈日〉お母さんが赤ちゃんを放っておいて外に出ていれば、赤ちゃんは当然泣くだろう。

b. 〈モ〉

eǰi ni nilq_a keüked-iyen qayaγad γadan_a γar-u-γsan yum bol

お母さん 3RD 赤ちゃん-REFL 放って 外 出る-VN MP ば

nilq_a keüked ukila-qu ügei yaγakib.

赤ちゃん 泣く-VN ない あるか

(お母さんが赤ちゃんを放っておいて外に出ていれば、赤ちゃんは当然泣くだろう。)

2）偶然確定

次に日本語の「ば」とモンゴル語の bol に偶然確定を表す用法があるかどうかについて見る。

(キ)「ば」には偶然確定条件を表す用法はあるが、bol には偶然確定条件を表す用法はない。

日本語の「ば」には偶然確定条件を表す用法はあるが、モンゴル語の bol には偶然確定条件を表す用法はない。たとえば次の日本語の (12a) が自然な偶然確定条件を表す文であるのに対して、モンゴル語の例 (12b) は不自然である。この理由は、モンゴル語では、偶然確定条件を表すには、もう一つの条件を表す形式 bal を用いるからである。

(12) a. 〈日〉生計を切りつめていけば、五六軒の家作の家賃で立てていけた。

(益岡 2000: 160)

b. 〈モ〉*ᠠᠮᠢᠳᠤᠷᠠᠯᠢᠶᠠᠨ᠂ᠠᠷᠪᠢᠯᠠᠵᠤ᠂ᠢᠷᠡᠭᠰᠡᠨ᠂ᠪᠤᠯ᠂ᠲᠠᠪᠤ᠂ᠵᠢᠷᠤᠭᠠᠨ᠂ᠲᠠᠰᠤᠯᠭᠠ᠂ᠠ᠂ᠲᠦᠷᠢᠶᠡᠰᠦᠨ᠂ᠭᠡᠷ᠂ᠲᠦᠷᠢᠶᠡᠪᠡᠷ᠂ᠠᠮᠢᠳᠤᠷᠠᠵᠤ᠂ᠳᠡᠶᠢᠯᠦᠪᠡ᠃᠃

amidural-iyan　arbila-ǰu　ire-gsen　bol, tabu ǰirγuγan tasulγ_a türiyesün ger-ün

生計切り-INST　つめる-CV　くる-VN　は　五　六　軒　家　作-GEN

türiyesü-ber　amidura-ǰu　deyilü-be.

家賃-INST　生活する-CV　できる-PAST

（生計を切りつめていけば、五六軒の家作の家賃で立てていけた。）

3）前件だけが現実の事態を表す

前件だけが現実の事態を表す用法は、前件が現実の事態を表しているという点で確定条件に隣接するものである。

（ク）「ば」にも bol にも、前件だけが現実の事態を表す用法がある。

前件だけが現実の事態を表すというのは、次の (13) のようなものである。(13) の前件は「こんなに風が激しい」という現実の事態を表しているのに対し、後件の「あの男は一晩中眠れないかもしれない」は不確定なもので、この点で確定条件とは異なる。(13) が自然なように、日本語の「ば」にもモンゴル語の bol にも、「前件だけが現実の事態を表す」用法がある。

(13)　a. 〈日〉こんなに風が激しければ、あの男は一晩中眠れないかもしれない。

（益岡 2000: 160）

b. 〈モ〉ᠰᠠᠯᠬᠢ᠂ᠶᠢᠮᠦ᠂ᠳᠤᠭᠶᠢᠨ᠂ᠪᠤᠯ᠂ᠲᠡᠷᠡ᠂ᠡᠷᠡᠭᠲᠡᠢ᠂ᠨᠢᠭᠡ᠂ᠰᠥᠨᠢ᠂ᠤᠨᠲᠠ᠂ᠴᠢᠳᠠᠭᠤ᠂ᠦᠭᠡᠢ᠂ᠪᠠᠶᠢᠯᠠ᠃᠃

salki eyimü　doγsin　bol　tere eregtei　nige söni　unta-ǰu　čidaqu ügei bayiq_a.

風こんな風　激しい　ば　あの男　一晩中　眠れる-CV　できるないだろう

（こんなに風が激しければ、あの男は一晩中眠れないかもしれない。）

本稿で述べてきたことをまとめると、次頁の表 1 のようになる。表 1 において、○は当該の形式が用いられることを示し、×はそれが用いられないことを示す。

モンゴル語の bol の歴史的変化、主題マーカーbol と動詞の語尾に付加して確定条件、仮定条件などを表す bal との関係を記述することを今後の課題とする。

表１ 「条件用法と「は」bol」のまとめ

条件用法と「は」bol	ば	bol
恒常条件を表す用法がある。	○	○
反復・習慣を表す用法がある。	○	○
現実化以前の事態を表す用法がある。	○	○
成立するかどうかが分からない事態を仮定する用法がある。	○	○
反事実的条件を表す用法がある。	○	○
必然確定条件を表す用法がある。	○	○
偶然確定条件を表す用法がある。	○	×
前件だけが現実の事態を表す用法がある。	○	○

【付録】 モンゴル語の表記における略号の説明

1ST	first person 一人称	IMPF	imperfective 未完了
2ND	second person 二人称	INST	instrumental 造格
3RD	third person 三人称	IV	intransitive verbalizer 自動詞派生辞
ABL	ablative 奪格	MP	modal particle ムードの小辞
ACC	accusative 対格	NP	non-past 非過去
ASS	associative 連合	OPT	optative 希求
CAUS	causative 使役	PASS	passive 受身
COL	collective 集合	PAST	past 過去
COM	comitative 共同格	PERF	perfective 完了
COMP	completive 完成	PL	plural 複数
CON	conditional 仮定	POSS	possessive particle 所有小辞
COO	cooperative 共同	PROG	progressive 進行
CV	converb 副動詞語尾	QP	question particle 疑問小辞
DAT	dative-locative 与位格	REC	reciprocal 相互
DIR	directive 方向格	REFL	reflexive possessive 再帰所有
DOER	doer 行為者	TER	terminal 限界
FP	focus particle 焦点を表す小辞	TV	terminating verbal 終止語尾
GEN	genitive 属格	VN	verbal nominal 形動詞語尾
HAB	habitual 習慣	VOL	voluntative 意志
IMP	imperative 命令	WISH	wish 希望

注：略号は梅谷（1999）によるものである。

例文採集資料

現代日本語書き言葉均衡コーパス（中納言）

odo üy_e-yin mongγol keüked-ün udq_a ǰokiyal-un degeǰi ǰüčüge-yin boti, öbör mongγol-un keblel-ün bülüglel, öbör mongγol-un surγan kömüǰil-ün keblel-ün qoriy_a, öbör mongγol-un baγacud keüked-ün keblel-ün qoriy_a 2010

öbör mongγol-un edür-ün sonin 2009

G, ayurzan_a, L, ölǰeitegüs, mongγol-un songγomal ögülelge, öbör mongγol-un soyol-un keblel-ün qoriy_a 2009
Mönggenbayar, gün uqaγan, öbör mongγol-un yeke surγaγuli-yin keblel-un qoriy_a 1996
Sečenbilig-ün nayiraγulul-un songγomal, öbör mongγol-un arad-un keblel-ün qoriy_a 2003
Зууны Мэдээ 2010
100tümen üge-tei odo üy_e-yin monnγol kele bicig-ün deyita kömörge (NMGDX コーパス), öbör mongγol-un yeke surγaγuli

参考文献

〈日本語の参考文献〉
阪倉篤義（1993）『日本語表現の流れ』岩波書店
丹羽哲也（1993）「仮定条件と主題、対比」『国語国文』62巻10号 pp. 19–33 中央図書出版社
丹羽哲也（2006）『日本語の題目文』和泉書院
野田尚史（1996）『「は」と「が」』くろしお出版
堀川智也（2007）「「対比」でも「題目提示」でもない「ハ」―「万葉集の用例を中心に―」」『日本語・日本文化研究』第17号 pp. 33–44 大阪外国語大学日本語講座
堀川智也（2009）「主題として機能する格助詞表示の名詞句」『大阪大学世界言語研究センター論集』1 pp. 75–88 大阪大学世界言語研究センター
堀川智也（2010）「日本語の「主題」をめぐる基礎論」『大阪大学世界言語研究センター論集』4 pp. 103–117 大阪大学世界言語研究センター

〈日本語とモンゴル語の対照研究およびその他の言語の参考文献〉
梅谷博之（1999）「現代モンゴル語の使役を表す接辞が連続して現れる場合」『日本言語学会第118回大会予稿集』pp. 177–182 日本言語学会
サイシャラト（2012a）「モンゴル語の主題表示 bol の使用される範囲―叙述類型論の観点から―」『日本モンゴル学会紀要』第42号 pp. 39–47 日本モンゴル学会
サイシャラト（2012b）「日本語の「は」とモンゴル語の bol の対照研究」『KLS32』pp. 85–96 関西言語学会
サイシャラト（2012c）「モンゴル語の主題に関する一考察―定義型主題を中心に―」『言語文化学研究（言語情報編）』7号 pp. 135–146 大阪府立大学人間社会学部言語文化研究科
徐烈炯・劉丹青（2007）『話題的結構与効能』上海世紀出版股份有限公司、上海教育出版社
öbör mongγol-un yeke surγaγuli-yin mongγol sudulul-un degedü surγaγuli-yin mongγol kele sudulqu γaǰar (1964) odo üy_e-yin mongγol kele, öbör mongγol-un arad-un keblel-ün qoriy_a
（内蒙古大学蒙古学学院蒙古語文研究所（1964）『現代蒙古語』内蒙古人民出版社）
öbör mongγol-un yeke surγaγuli-yin mongγol sudulul-un küriyeleng-ün mongγol kele bičig sudulqu γaǰar (1999) Mongγol Kitad toil, öbör mongγol-un yeke surγaγuli-yin keblel-ün qoriy_a
（内蒙古大学蒙古学研究院蒙古語文研究所（1999）『蒙漢詞典』内蒙古大学出版社）
Nasunbayar. Qaserdeni. Sčen. čoγtu. Dawadaγba. Naranbatu (1982) orčin čaγ-un mongγol kelen-ü ǰüi, öbör mongγol-un surγan kümüǰil-ün keblel-ün qoriy_a
（那森柏・哈斯額爾敦・斯琴・朝克図・達瓦達布格・図力更・那仁巴図（1982）『現代蒙古語』内蒙古教育出版社）
Qai yin qua (2006) 'Monggol kelen-ü ner_e üge-yin emün_e kereglegdekü <bol> un kelen ǰüi-yin ončaliγ sinǰi-yin tuqai,' öbör mongγol-un yeke surγaγuli-yin erdem sinǰilegen-ü sedkül, No. 35–109 pp. 23–26 öbör mongγol-un yeke surγaγuli-yin erdem sinǰilegen-ü sedkül nayiraγulqu keldes
（海銀花（2006）「モンゴル語の名詞の前の bol およびその文法的特徴」『内蒙古大学学報』哲学社会科学蒙文版 No. 35–109 pp. 23–26 内蒙古大学学報編集部）
Garudi (2001) orčin čaγ-un mongγol kele, öbör mongγol-un surγan kümüǰil-ün keblel-ün qoriy_a

（嘎日迪（2001）『現代蒙古語』内蒙古教育出版社）
L. Toγtanbayar (2006) ‘kelegdekün kiged kelegdekün bolγaqu sedkiče-yin bayiγulumǰi,’ öbör mongγol-un yeke sur γaγuli-yin erdem sinǰilegen-ü sedkül, No. 35–124 pp. 7–13 öbör mongγol-un yeke surγaγuli-yin erdem sinǰilegen-ü sedkül nayiraγulqu keldes
（楽. 套格敦巴乙拉（2006）「主題および主題化する過程における心理的メカニズム」『内蒙古大学学報』哲学社会科学蒙文版 No. 35–124 pp. 7–13 内蒙古大学学報編集部）
š. Lubsangwangdan (1982) orčin čaγ-un mongγol kelen-ü ǰüi, öbör mongγol-un arad-un keblel-ün qoriy_a
（舎. 羅布蒼旺丹（1982）『現代蒙古語』内蒙古人民出版社）
Čenggeltei (1979) odo üy_e-yin mongγol kelen-ü ǰüi, öbör mongγol-un arad-un keblel-ün qoriy_a
（清格爾泰（1979）『現代蒙古語語法』内蒙古人民出版社）
Čenggeltei (1991) mongγol kelen-ü ǰüi, öbör mongγol-un arad-un keblel-ün qoriy_a
（清格爾泰（1991）『蒙古語語法』内蒙古人民出版社）
Hammar, Lucia B. (1983) “SYNTACTIC AND PRAGMATIC OPTIONS IN MONGOLIAN: A STUDY OF ‘BOL’ AND ‘N’” Indiana University

キーワード：日本語、モンゴル語、主題マーカー、条件用法、対比

提要

日语和蒙古语话题标记的条件用法对比

賽希雅拉図

本论文论述日语和蒙古语话题标记的条件用法的相似点和不同点。日语的表示条件的「ば」是从话题标记「は」演变过来的（阪倉（1993））。因此本论文从表示恒常条件的用法、表示假定条件的用法、表示确定条件的用法三个角度对比和分析日语的「ば」和蒙古语话题标记 bol 的相似之处和不同之处。

首先，研究分析表示恒常条件的用法。观察表示恒常条件的用法时从表示恒常条件的用法和表示反复・习惯性动作的用法两个方面进行分析。分析后得知日语的「ば」和蒙古语话的题标记 bol 均有表示恒常条件的用法和表示反复习・惯性动作的用法。

其次，研究分析表示假定条件的用法。分析假定条件的用法时从表示实现之前的事态的用法、表示不知是否成立的用法、表示反事实的用法三个角度观察。分析结果发现日语的「ば」和蒙古语话的题标记 bol 均有表示实现之前的事态的用法、表示不知是否成立的用法、表示反事实的用法。

最后，分析表示确定条件的用法。观察确定条件的用法时，从必然确定条件、偶然确定条件、前半部分为事实三个角度分析。分析结果发现日语的「ば」有必然确定条件、偶然确定条件、前半部分为事实的用法，但蒙古语的 bol 虽有表示必然确定条件和表示前半部分为事实的用法，但没有表示偶然确定条件的用法。

关键词：日语，蒙古语，话题标记，条件用法，对比